

10月3日まで

館山病院で戦後70年企画展

米軍と館山市民の友好窓口

英会話教室の写真など紹介

館山市館山の館山病院
ギャラリーで、戦後70年
の企画展示が始まった。

終戦直後に本土で唯一の
直接軍政が敷かれた館山
で、医療活動の窓口とな
った同病院は、米軍と
市民の友好に大きな役割
を担ったとされ、院内を
視察する米軍や英会話教
室など市民との交流を示
す貴重な資料が展示され
ている。10月3日まで。

主催するNPO法人安
房文化遺産フォーラムの
愛沢伸雄代表によると、
館山病院は軍政下で医療
活動の中心となり、当時
副院長で医師会の代表
だった川名正義氏は市民
代表として米軍との交渉
役も務めた。

館山に上陸した米軍
は、当初混乱も予想して

いたが、同病院での医療
を通じて、館山は平穏で市
活動や川名氏との交渉を
民も友好的であると理解

し、米軍と市民の良好な
関係が築かれたという。

当時の病院長だった穂
坂与明氏の二男・俊明さ



ギャラリーで当時を知る人たちとNPO関係者ら＝館山病院で



館山病院に開設された英会話教室の写真(昭和20年11月)

「終戦直後、家に兵隊が
やってきたのを覚えてい
る。父親は隠すことにな
く、英語で応対していた。
その後はたっさんの米兵
が遊びに来た」と交流ふ
りを語る。

昭和20年10月ごろには
病院内に英会話学校も開
設された。元館山市教育
長で当時、西岬村東小学
校の教員だった高橋博夫
さん(87)＝同市沼沼は
教室に通った一人。

「自宅の近くにいた米
兵と会話がしたくて3回
ほど通った。米軍と市民
が交流するための教室
で、米軍の通訳は日本語
がうまく、とても友好的
だったね」と振り返る。

展示会では、英会話教
室に携わった米軍の通
訳、将校を病院関係者が
囲む記念写真や米軍兵士
に病院内を案内する川名
氏など当時の写真、資料
約40点が展示されてい
る。

愛沢代表は「館山病院
を通じて米軍は、館山市
民、日本人の友好ぶりを
知った。その後の米軍の
占領政策にも大きな影響
を与えたのでは。日本が
戦後、平和なスタートを
切るきっかけになった病
院が地域にあることを多
くの人に知ってもらいた
い」と話している。

南新日 2015.9.19